

# 米国の新設計画、本格始動

## ボーグル3、4号機建設で

# 年末にもCOL発給へ

FERの発行したほか、同計画で建設が予定されているウェスチングハウス(WH)社製AP1000の設計変更についても、新たな認証(DC)の発給、および同認証の規則制定に必要なFERを発行したことに伴うもの。サザン社は「米国で歴史的とも言える新たな原子炉建設許可発給への道筋が見えてきた」と歓迎している。

### FERの発行

米ジョージア州でアルビン・ボーグル原子力発電所3、4号機の建設計画を進めているサザン社は、今年末にも同計画の建設・運転一括認可(COL)が発給される見通しになったと発表した。

これは同日、米原子力規制委員会(NRC)がCOL発給に必要な最終安全評価報告書(FSER)を承認した。NRCの委員五名が、最終判断を下すための投票を行うことになっている。

COLが発給されれば、コンクリート打設など本格的な建設作業が開始される。サザン社は「米国で歴史的とも言える新たな原子炉建設許可発給への道筋が見えてきた」と歓迎している。



部分認可に従って準備作業が進められているボーグル建設サイト

## MOX加工工場を閉鎖

### 英国 福島事故が影響

英国・原子力デコミッションング機構(NDA)は三日、稼働率が低迷していたセラフィールドMOX燃料加工工場(SMP)を閉鎖する方針を発表した。

福島原発事故の影響により、日本の十電力会社所有のプルトリウムをMOX燃料に製造し、プルサーマル計画に使用する見通しが不透明になったことから、NDAではSMPの今後について再検討。燃料製造契約への影響や変化した商業リスクを分析した結果、SMP維持のために英国国民にさらなる財政負担を強いられるのは、実質的に最も早い時期に閉鎖するのが唯一合理的な行動と判断したと説明している。

NDAは今後も、日本のプルトリウムを国際的な安全基準に則って安全に保管するとともに、その再利用に関する日本の電力会社の方針を責任を持って支援していくため、更なる協議を行う方針。

二〇一〇年に操業を開始したSMPは、エンジニアリングおよび技術上の問題等により、設計上の生産能力である年間百二十ト(重金属換算)よりはるかに少なく、九年度の稼働期間に生産したMOX燃料は十五ト程度とされている。

〇八年には顧客からのMOX製造注文を大幅に削減された。また昨年五月には、日本原子力発電を含む日本の電力十社との間で、日本に輸送するMOX燃料の量をSMPでMOX燃料に加工し、日本に輸送することで全体的な枠組みに合意が達していた。

なお、今回の決定はSMPのみに係わる商業的な問題によるもの。英国には現在、原子力の民生利用で抽出したプルトリウムが百二十ト存在し、このうち二十八トが海外顧客の所有である。これらの長期的な管理方法を探るため、政府は今年二月から五月まで長期貯蔵の継続(固化)後に地層処分③MOX燃料に加工し、新規および既存の炉で再利用—などの選択肢を公開協議に付した。これらのうち、英国政府は③案を「最も有望と見られる予備的な政策見解」として提案。難点として、SMPの稼働率が低く、多額の経費を投じて新たな加工工場を建設する必要はある点を指摘していた。核拡散の不安が少ないなど同案の有用性や合理性が、安全面や金銭的な価値と言った要求事項に見合っていると検証されれば、実行に移される可能性も少なからずあると見られている。

## 二度目の固化

### 体返還を開始

英国の国際原子力サービズ(INS)社は二日、日本の使用済み燃料再処理から出た高レベル廃棄物(HLW)の二度目の返還を開始した。

INSは廃棄物の入ったキャスター七十六本をセラフィールド・サイトで三基の輸送容器に封入し、まず鉄道で近隣の港湾に輸送。そこからINSおよび日本の電力会社が出資するパシフィック・ユーロリアントランスポート社(PNTL)の専用輸送船パシフィック・グレイブ号に積み替え(II写真、日本に向けて出港した。パナマ運河経由で九月前半に日本に到着する予定だ。再処理後の残渣を方ラ再処理して発生国に返還するのとは再処理委託契約に伴う義務事項で、英国政府の政策に則ったもの。INSによると輸送容器は国際原子力機関の厳しい輸送基準に準拠している。

一方、仏国からの方ラも含まれて石炭、天然ガス、水力などで保有する発電設備千九百万kWに加入、プログレス社が進めていたレヴィ・カウテン原子力発電所、およびシエラ・ハリス発電所の増設計画も推進していくことになった。

## COL審査が進展

### 米V・Cサマー増設計画

米サウスカロライナ州でV・Cサマー原子力発電所2、3号機建設計画を進めているサウスカロライナ・エレクトリック&ガス(SEL)社は三日、建設・運転一括認可(COL)審査の主要部分を占める最終安全評価報告書(FSER)が九月にも発行される予定だと発表した。

SELとG&G社が米原子力規制委員会(NRC)から受領した最新のCOL審査日程によると、COLの発給にはFSER

## サマー2、3計画に出資参加

### 米デューク社

米国のデューク・エナジー社は七月二十日、サマー2、3計画に出資参加する。SELは七月二十日、サマー2、3計画に出資参加する。SELは七月二十日、サマー2、3計画に出資参加する。

福島原発事故の影響により、日本の十電力会社所有のプルトリウムをMOX燃料に製造し、プルサーマル計画に使用する見通しが不透明になったことから、NDAではSMPの今後について再検討。燃料製造契約への影響や変化した商業リスクを分析した結果、SMP維持のために英国国民にさらなる財政負担を強いられるのは、実質的に最も早い時期に閉鎖するのが唯一合理的な行動と判断したと説明している。

NDAは今後も、日本のプルトリウムを国際的な安全基準に則って安全に保管するとともに、その再利用に関する日本の電力会社の方針を責任を持って支援していくため、更なる協議を行う方針。

二〇一〇年に操業を開始したSMPは、エンジニアリングおよび技術上の問題等により、設計上の生産能力である年間百二十ト(重金属換算)よりはるかに少なく、九年度の稼働期間に生産したMOX燃料は十五ト程度とされている。

〇八年には顧客からのMOX製造注文を大幅に削減された。また昨年五月には、日本原子力発電を含む日本の電力十社との間で、日本に輸送するMOX燃料の量をSMPでMOX燃料に加工し、日本に輸送することで全体的な枠組みに合意が達していた。

なお、今回の決定はSMPのみに係わる商業的な問題によるもの。英国には現在、原子力の民生利用で抽出したプルトリウムが百二十ト存在し、このうち二十八トが海外顧客の所有である。これらの長期的な管理方法を探るため、政府は今年二月から五月まで長期貯蔵の継続(固化)後に地層処分③MOX燃料に加工し、新規および既存の炉で再利用—などの選択肢を公開協議に付した。これらのうち、英国政府は③案を「最も有望と見られる予備的な政策見解」として提案。難点として、SMPの稼働率が低く、多額の経費を投じて新たな加工工場を建設する必要はある点を指摘していた。核拡散の不安が少ないなど同案の有用性や合理性が、安全面や金銭的な価値と言った要求事項に見合っていると検証されれば、実行に移される可能性も少なからずあると見られている。

SELとG&G社が米原子力規制委員会(NRC)から受領した最新のCOL審査日程によると、COLの発給にはFSER

SELとG&G社が米原子力規制委員会(NRC)から受領した最新のCOL審査日程によると、COLの発給にはFSER

SELとG&G社が米原子力規制委員会(NRC)から受領した最新のCOL審査日程によると、COLの発給にはFSER



中国広東核電集団有限公司(CGNPC)は八日、同国で十四基目の原子炉の建設を開始した。

中国広東核電集団有限公司(CGNPC)は八日、同国で十四基目の原子炉の建設を開始した。同社は「中国で歴史的とも言える新たな原子炉建設許可発給への道筋が見えてきた」と歓迎している。

同社は「中国で歴史的とも言える新たな原子炉建設許可発給への道筋が見えてきた」と歓迎している。

同社は「中国で歴史的とも言える新たな原子炉建設許可発給への道筋が見えてきた」と歓迎している。



稼働中のサマー1号機

同社は「中国で歴史的とも言える新たな原子炉建設許可発給への道筋が見えてきた」と歓迎している。

同社は「中国で歴史的とも言える新たな原子炉建設許可発給への道筋が見えてきた」と歓迎している。